大豆ニュース　No.5
～適期収穫と乾燥調製～

令和　6年　10月　2日
巻農業普及指導センター

1　生育調査結果(調査日9月25日晴れ ※黄化率は9月30日調査)

調査地点		主茎長（cm）	一次分枝数（本/㎡）	最下着莢高（cm）	播種日	開花期	黄化率（%）	成熟期（予想）	NOSAI予察調査より
里のほほえみ									
中之口	河間	79	37.1	30.0	6月5日	7月26日頃	15%	10月24日頃	ホソヘリカメムシ4 イチモンジカメムシ1
岩室	高畑	67	47.4	14.7	5月31日	7月22日頃	30%	10月22日頃	ホソヘリカメムシ7 アオクサカメムシ3
西川	西汰上	54	51.1	15.0	6月12日	7月30日頃	20%	10月23日頃	ホソヘリカメムシ8 アオクサカメムシ2
平均		67	45.2		6月5日	7月26日頃	22%		
エンレイ									
潟東	茨島(麦跡)	40	31.3	10.3	6月18日	8月2日頃	40%	10月18日頃	ホソヘリカメムシ2
西川	槇島	44	27.4	10.1	6月17日	7月31日頃	80%	10月15日頃	ホソヘリカメムシ4 イチモンジカメムシ1
平均		42	29.4		6月17日	8月1日頃	60%		
平均(5調査地点)		57	38.9		6月10日	7月28日頃	37%	後日再評価	
平年値		63	43.4		6月8日	7月24日頃		10月19日	

- 平年に比べて主茎長は短く、一次分枝数は少なくなっています。
- 大豆カメムシ類、食葉性鱗翅目幼虫による葉の食害が各地で確認されました。
  葉焼病は里のほほえみでやや多発生が確認されました。

○収穫開始時期（成熟期）は、エンレイの標準播は10月15日頃、小麦跡では10月18日頃、里のほほえみは10月22日頃（ほ場間差あり）と予想されます。
○収穫開始の遅れが収量・品質の低下につながることから、成熟期が早いほ場から適期を逃さず収穫し、刈り遅れずに全体の収穫を終えるようにしましょう。

2　収穫時期のめやす

- 成熟は、倒伏、湿害・干ばつ害及び地力により差が生じるため、成熟の早晩を把握しやすい黄葉期に黄化及び落葉状況を確認し、刈取りの順番を決めておきましょう。
- 収穫開始のめやすは、黄葉期からエンレイで約15日後、里のほほえみで約18日後頃です。刈り遅れにより「しわ粒」や「変質粒」が増加するため、収穫は成熟期後15～18日頃までに行いましょう。
- 青立ちや成熟ムラが著しい場合は、莢自体の成熟程度から成熟期を判断しましょう。

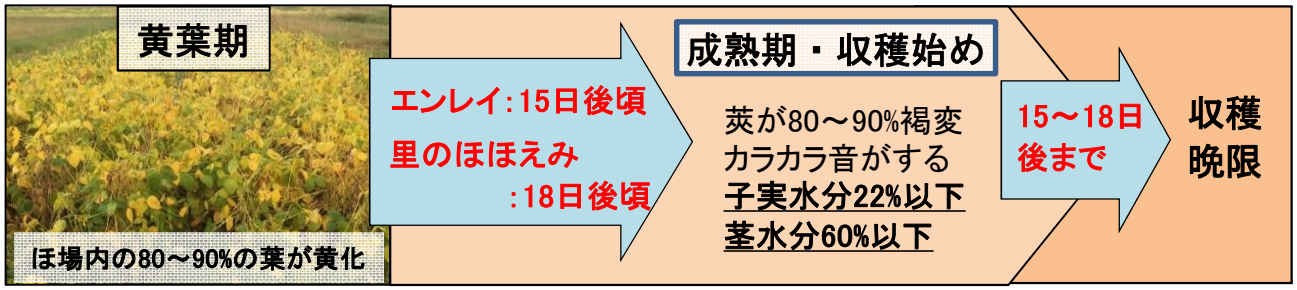

図1　成熟期のめやすと収穫適期

茎水分　72.0%
茎が黄色味

53.5%
茎に茶褐色斑点

子実水分(%)	40	22～20	20未満
子実の状態	豆が膨らんでいる	締まっているが、指でつまみ力を入れると変形する	硬く締まっており、爪を立てるとわずかに傷がつく

図2　成熟期の茎水分及び子実の外観上のめやす

3　収穫時刻のめやす

○ 汚粒の発生を防ぐため、下表を参考に作物水分が下がった状況で収穫しましょう。

天候条件	収穫作業時間
前日、当日とも晴天	11時から17時頃までの５～６時間程度
前日が晴れ、当日が曇り	11時からの３～４時間程度
前日まで降雨、当日が晴天	作業が不可能な場合が多い
前々日までかなりの降雨	

4　汚粒対策

○ 汚粒の発生原因となる雑草や青立ち株は、収穫前までに必ず抜き取り、ほ場外へ持ち出しましょう。

○ 特に、ヨウシュヤマゴボウ、イヌホオズキは、収穫物に果実汁が付着すると検査対象外となるので、必ず抜き取りましょう。

○ 青立ち株が多発生した圃場は、正常に成熟した圃場と刈り分けて収穫しましょう。

○ 土砂を掻き込まないよう刈取り高さを調整し、掻き込んだ場合は機械を止めて清掃しましょう.

5　乾燥・調製

○ 乾燥温度が高いとしわや皮切れが発生しやすくなります。通風温度を適切に調整し、高品質な大豆に仕上げましょう。

子実水分	乾燥のポイント
20%以上	常温乾燥（しわ粒の発生防止）
20%以下	加温乾燥（裂傷粒の発生防止） ※ 送風温度は気温＋10℃以下とし、30℃を超えないようにする

撹拌機能のない乾燥機では水分ムラが発生するので、乾燥途中で撹拌しましょう。

○ 大豆用粒選機や色彩選別機は流量を適切に設定して、被害粒や夾雑物の混入防止に努めましょう。

目標収量180kg/10a、3等級以上比率70%を目指し、
一つ一つの管理対策を確実に実践しましょう！